

学体連会報

発行日・昭和 58 年 5 月 15 日
 東京都渋谷区代々木神園町 3 番 1 号
 国立オリンピック記念青少年総合センター内
 財団法人日本学校体育研究連合会
 発行者・会長 大石 三四郎

人間全力を出すことの意味

会長 大石 三四郎



大学入学時には全く同じ実力と思われる選手が、一人は 1 年生から公式試合の選手として出場し、一人は補欠となる。1 年経過してみると、その実力に差が歴然と出るようになる。一人は 4 年間、正選手として通し、一人は、とうとう万年補欠として終る。その二人の卒業時での実力は、大人と子供の差にまでなっているとはいわないが、一見してかなりの差のつくことは事実である。

時には、その補欠になったもので、ついに、その運動部を去り、そのスポーツの世界から姿を消すということもある。また、時には、途中で奮起して、人一倍の練習をして、認められて正選手となり、最後は最優秀選手となることもある。また、思ってもいないような運がめぐってきて、正選手などの故障で、その代りに出場するということがある。

要するに人間は、その場、その場で全力をそそぐ時には、知らず知らずの間に、その能力を向上させたり、自分でも不思議と思うような力を出すときがある。

考えてみれば、人間が本気になって、全力を発揮するという事は、普通の変化の少ない環境では、なかなかむずかしいことなのである。丁度よい競争相手がいって一生懸命やるとか、日本選手権とか、何かチャンピオンシップがかかっていると、何か、自分のからだを、こころを、強く刺戟するものがないければならぬ。換言すれば、心身の機能を一時、一点に集中するように、全身全霊が働かなければならぬのである。

したがって、例えば 100 メートル疾走にしたところで、よい相手がいって、しかも、競走で、時に勝ったり、時に負けたりするものと走るときには、意外な好記録が生まれずとは限らない。逆に、実力に大きな差があると、どうにもならないというので、始めから「ダメだ」となって、全力をつくして走らないという放棄の状態が出てくるものなのである。

このようなことは、身体的な障害、例えば視覚障害のある人は、疾走に、先が見えない、地面が見えないという不安から、全力をつくして走ることができないという場合と同じような結果を示すものである。ただ、原因が前者は放棄の心理状態であり、後者は不安という精神状態である。しかし、時には、この不安という精神状態でも、不安が極端になると、逆の現象を示すことがある。例えば、火事場の馬鹿力ということで、普段、重いものを持ったことのない女性が、「火事だ」という声を聞いて、目の前の重い物を持って外に飛び出すということがあ

る。要するに、何かの強い刺戟が、よい方向に働いて、心身の集中ができたときには、何か「全力を出す」ことができるのである。運動選手でも試合という場面で初めて出せるという能力というものがある。それを、練習のときに「練習しろ」といったところで、できるものではないのである。このような力とか技術(わざ)を「神わざ」というのも、普通の人間には容易にできるものではないということ

い表しているであろう。しかし、この「神わざ」も度々試合を重ねていると定着するものがある。そのようなときに、われわれは、名人とも達人ともいふ呼び名をその選手に与えるわけである。

このように考えてみると、人間はできるだけ、きびしい環境に身を置いて鍛えてもらった方がよいということになる。適当に「シゴイテクレル」指導者、先生を、昔から捜せというものこの意味であろう。このような教師がないときは、人間自ら断崖に立たせるのがよい、ともいわれている。

このように思慮をめぐらしてみれば、人間は全力を出すということの意味を、もう一度考えてみなければならない。全力とは、心身の動きを最高にする

ともいえる。したがって、心と身の相関連するそのしかたを究めなければならない。心を鍛えるために、身を通じてしなければならない。身を鍛えるとは、心を鍛えなければならないのである。かくして、われわれは、心身相関の問題をどのように捉えるかということになるのである。

さて、心身相関の問題であるから、この立場から全力を出すということを研究しろ、教育しろといったところで、さてどういふものであろうか。実証的なアタックの方法論も、私は私なりに持っている。しかし、相関の問題が単純な二つのものの対応ならなんとか手につくのであろうが、心と身の対応となると、そうはいかない。さて、どうしたものか。

昭和57年度

学校体育の回顧と展望

文部省体育局長 佐藤良男



全国各地で、学校教育なかでも学校体育に関係する多くの方々に、在校する児童・生徒等に対して、教科体育をはじめとし、特別活動や部活動等を通じて、献身的な豊かな指導を展開していただいているのが今日の学校体育であるだけに、昭和57年度に限るとしても、すべてについて回顧し展望することは、それこそ至難といわざるを得ない。

そこで、私どもが知り得た情報の幾つかを手がかりに、昭和57年度の学校体育を概観してみようと思ふ。

1 教育課程の編成と実施の側面から

「人間性豊かな児童生徒の育成」や「ゆとりのあるしかも充実した学校生活の実現」といったことがらを目指しているのが、教育課程の基準としての今日の学習指導要領の特徴であるが、それによる教育課程の編成と実施も、小学校が3年次、中学校が2年次、高等学校が学年進行による1年次と、小学校から高等学校にわたっているのが、57年度の特徴である。

これを体育の立場からみるならば、いわゆる「生涯体育(スポーツ)」を目指した学校体育が、小・

中・高の一貫性の上に立って実践されている年度ということができよう。

教科体育においては、運動の特性のとらえ方を、従前の「本質的な特性」を生かしながらも、さらに「運動の課題からみた特性」を一層厳しく確かめるとともに、「児童生徒の立場からみた運動の特性」を重視するように、考え方を変化発展させてきているのが特徴である。

小学校における低学年から中学年にかけての「基本の運動」や「ゲーム」といった領域構成がその最たるものであり、中学校や高校における「個人的スポーツ」、「集団的スポーツ」などの「スポーツ」という名称の領域構成もその現れである。こうすることにより、一人一人の児童生徒に、運動の真の楽しさ・喜びを味わわせ、日常生活において運動に親しむようになるその基礎を培おうとするものである。かつての多目標経験型に比べれば、どちらかといえば得意種目型の方向であるといえようが、それぞれの子供の能力・適性や興味・関心等に応じて、その運動の特性に基づく(ふれる)楽しさ・喜びを味わわせることができるような学習の指導を意図し

ているものである。運動することの楽しさ・喜びが湧き出てくれば、また、学年や学校段階が進むに従って、運動の必要性についての理解が深まってくれば、自ら進んで運動に接近することになると考えるからである。

教科外体育においては、特別活動自体の独自性は確保しながら、その中の体育的な諸活動を一層充実させることや、特別活動と関連の深い運動部活動などについてもその充実を図り、日常生活における体育的活動がより促進されることを目指している。教科体育での学習を基礎にするとともに、さらに、個々の児童生徒が、能力・適性や個性を一層伸長することができるように、豊かな体育的活動の実践を期待しているものである。

では、これらの趣旨や考え方がどのように具現化されているであろうか。実践研究の成果に着目してみよう。

(1) 全国学校体育研究大会にみる

新潟県で行われたこの大会は、その研究主題に示されているように、「生涯スポーツを志向した学校体育の推進」という今日的な課題への取り組みである。そして部会では、幼稚園が「体を動かして遊ぶことの好きな子供の育成」、小学校が「意欲をもって生き生きと運動する子供の育成」、中学校が「課題をもって意欲的に学習に取り組む生徒の育成」、高等学校が「体育の生活化」、盲・聾・養護学校が「障害にまげず生き生きと運動する子供の育成」をそれぞれ研究主題とし、さらに、幼稚園を除く各部会では分科会が設けられ、分科会ごとに協議題に基づく研究(提案)発表や研究協議が行われ、部会の研究主題に迫るという特徴をもっている。その内容は、教科体育での学習指導に限らず、クラブ活動・部活動、体力づくりなど、いわゆる教科外体育にも及ぶものであり、極めて豊かなしかも今日的な課題に応える貴重な実践研究を中心とした研究大会であったといえる。

(2) 全国高体連研究協議会にみる

東京で行われたこの協議会では、「高体連の実態と課題」「健康と安全対策」「体育・スポーツ活動の運営指導と課題」などの主題のもとに分科会が設けられ、内容的には、組織論、体育事業論、学習指導論、指導者論、運動者行動論、運動安全論などと

いえる発表や協議がなされている。

昨今の一つの特徴に、体育・スポーツ活動中の死亡事故の問題がある。多くはいわゆる突然死の傾向ともみられるが、そうではない事故も発生することを考えると、例えば、運動の特性に基づく学習過程なり練習(トレーニング)方法なりの側面から、健康と安全対策を究明することは、まことに意義深いものがある。体育活動の活性化のため、一層の実践研究が望まれるところである。

(3) 体育関係誌等にもみる

体育関係の月刊誌等でも、教科体育の学習指導をはじめ、体育指導の実践例が多く紹介されている。学校の中だけでなく、家庭や地域との密接な連携のもとに、心身ともにたくましく豊かな青少年を育てようとする実践例もみられる。体力づくりの推進という点、これまでは狭義に解した取り組みもみられたが、今日では、知育・徳育と並ぶ体育と解する方が適切と思える実践例の多いのが特徴である。

運動の学習指導に着目してみると、一人一人の児童生徒に運動の楽しさを味わわせるための授業過程の研究が多く発表されているように思われる。学習課題のたせ方をはじめとし、各運動の特性や学習者の特性に基づく学習過程の在り方、学習集団の編成の仕方、施設用具の活用法、教師の働きかけ方などをめぐっての、実証授業を通しての実践研究の成果などが多くみられる。

また、評価特に学習評価に関する実践研究やその考え方に関する文献の多いのも特徴といえる。経験させるだけでなく、それを学習(習得)して児童生徒がプラスの方向に変容しなければ、学習指導が成功したとはいわないとする今日的な考え方からすれば、学習評価の在り方についての実践研究が多いのも当然のことといえよう。特に、すべての子供が運動に親しむようにするための楽しい体育の授業をどのように構成し、展開するかといった観点からすると、学習評価の在り方も従前とは異なった側面を伴ってくることから、今後ますます実践研究の対象となり、学習指導の一局面として研究開発されることが予想される。

2 指導者の研修事業等の側面から

次に、学校体育の推進役である体育指導者の研修事業等から振り返ってみると、そこにはまたいろいろ

ろな特徴をみることができる。それを概括してみると、次のように要約できそうである。

第1は、体育科学（体育教育学）関係の研修が多いことである。これは至極当然のことではあるが、昭和20年代からの変遷の上に立って、今日的な研修が行われる状況にある。

第2は、運動科学関係の研修である。運動とは何かが問われている今日、運動学あるいは運動方法学の立場からの研修が行われている。

第3は、体育経営学関係の研修が多くなっていることである。学校内における体育的活動の促進が強調されている思潮に基づくものと思われるが、児童

地方だより

科学万博と科学的な体育の授業

茨城県教育庁学校体育係長 本橋利美



我が郷土茨城県では「人間、居住、環境と科学技術」をテーマに、昭和60年「21世紀に向けた科学の祭典、科学万博つくば85」の開催に向けて努力している。

現在、体育・スポーツの世界における科学の活用は、年々増加はしているように思うがそれは大学の研究室を中心としたその周囲の一部の人達や国際競技等で活躍するスポーツ界が中心であって、体育の授業等ではまだそれほど活用しているとは感じない。しかし、21世紀を考えた場合我々の環境はますます科学の影響をうけることになるであろう。児童・生徒をとりまく生活環境がますます科学的になるということは、授業においてもできる限り科学的な面をとり入れることが効果をあげることになるのではないと思われる。今後、体育の授業の中に科学をどう活用するかが体育教師にとって大きな課題であるのではなかろうか。私は体育教師として、このような立場から昭和60年の「国際科学技術博覧会」を見学したいと今から楽しみにしている。

また、茨城県高等学校教育研究会では部員の有志

生徒の運動競技が盛んに行われ、学校教育活動のみならず、学校教育活動外の運動競技にまで及んでくると、いわば体育事業の運営をも含めた体育・スポーツ経営に関する力量が必要になってくる。経営研修が多くなりつつあるのは、まさに今日の学校体育の様相の一面を示しているとも考えることができよう。今日の体育経営学が、特に人々の行動心理学的な特徴を重視する考え方に立っていることを勘案すれば、広く生涯体育（スポーツ）を志向する学校体育の充実のため、なお一層焦点化されることが予想される。

21名が特別に研究委員会を組織し、体育研究部、保健研究部、運動部・体育の学校行事研究部の3つの班に分かれて効率的な授業や活動を志向して継続的に研究を進めている。どうしても惰性に流され、感覚的な授業におちいりやすい高等学校の授業に少しでも科学的なメスを入れることによって授業に新鮮さを加え、生徒に学習への意欲を喚起させようと試みている。

体育研究部では、「体育評価」を効果的かつ、だれもがなっとくする方法の究明に努めている。

例えば、人間の体温を体温計で測定する場合と、ひたいに手を当てて測定する場合とで差はないかもしれない。評価においても、いくら科学的な方法を研究しても現在の方法と結果においてほとんど変わらないかもしれないがやはり教師は体温計で測定すべきであるとの考えで、少しでも科学的な方法を考案したいとすでに3年間この問題に取り組んでいる。

他の2つの研究グループもわずかの時間を有効に活用し、一堂に会して議論を重ね、実践的な研究の推進に努力している。

はだしと体力づくり

高松市立築地小学校長 鶴川 徹



本校では昭和55年度から「はだし運動」を実施している。この運動の起りは、夏季の水泳指導の時プールサイドを歩くだけで足の裏がすり減り、血の出る児童が多くみうけられた。そこで、その予防対策と、教育目標である児童の体力づくりの一環として、校医の指導のもとに始められたものである。

はだしによる効用は、

- 1 足の裏の筋肉を反射的に動かすトレーニングになる。
 - 2 姿勢をよくする。
 - 3 内臓諸器官により刺激を与え働きをよくする。
 - 4 足の指を開放し、力を調節する働きをする。
- 以上のように考えられ、単に足の裏の皮膚を強くするだけでなく、児童が健康な生活を送る上でも大切な役割を果たすものである。

この「はだし運動」は夏だけでなく年間通して行われているが、その実行については、児童の自主性にまかせ強要はしていない。本年度3年目を終わろうとしているが、その成果は次のようである。

からだの発達とともに、こころの発達も

札幌市立伏見小学校長 鈴木 豊



体育指導といえば、動きや体力のことが中心に議論されることは勿論であり、そのことを否定するものではないが、今一つ子どものこの時期（幼・小）に達成しておかねばならない課題として、心の問題がある。

その中でも特に重視しなければならない内容として、人間関係の豊かさ、即ち集団についての在り方を学ばせる時期であり、集団性や社会性を伸ばすのに最も適した時期であることを、現在の子どもの成長過程をみると特に痛感いたします。

昭和58年度に向けて提言する

— 生涯スポーツ人づくり —

秋田県学校体育研究連合会会長 広 嶋 正比古



教育評価を必須の条件とする教育の営みの中で、最も今日的な課題は「授業の改善」で、それは古くて新しい課題でもあり、特に体育においては、生涯スポーツ人づくりを目指しての改善が緊要である。つまり、運動（学習活動）が楽しいものであるため

の工夫、自発的・自主的な取り組みのための工夫。要するに、意欲に燃える自主的・自発的な活動、楽しい体育とするための学習過程を作ることと、そのために必要な、的確な情報を得る、評価の研究に真剣に目を向けることを強調したい。

昭和58年度に向けて提言する

群馬県学校体育研究会会長 小 川 肇



- 1 学校保健領域研究の充実促進
 - (1) 保健体育教師は、保健を忘れてはならない。
 - (2) 現在の児童・生徒の身体状況から保健的観察が、必要欠くべからざるものとなっている。
 - ア 肥満児・るいそう児が増加傾向にある。
 - イ 成人病の低年齢化。

- ウ 精神衛生面等の指導が、緊急課題である。
- 2 学校保健委員会の充実強化
 - (1) 地方大学等への協力依頼による充実。
 - (2) 行政自治委員等の地域代表の参加による充実。

昭和58年度に向けて提言する

山梨県中道町立中道北小学校長 河 野 敏 男



校内暴力やシンナー遊び等、まことに憂うべき教育現場で、さわやかに救われるのは、体育活動の推進であろう。汗を流して覇を競った成果には、自己鍛錬と体力の限界への挑戦という所産がもたらされる。楽しきのなかにきびしさやたくましさを要求し

身体で覚える“できた喜び”を満喫させる、体育学習の研究に腐心する教師の活力こそが求められる所以である。すべからく、体力、気力の充実と豊かな人間性の向上をめざした体育研究活動を進め、学校体育が任ずる責務の遂行に精進すべきであろう。

昭和58年度に向けて提言する

愛知県学校体育研究連合会会長 蛭 川 博



- 1 青少年の健全育成のための学校体育の推進
 - (1) 体育を通して基本的マナーを育成する。
 - (2) スポーツマンシップは口にすべきことでなく実践すべきことであること。
 - (3) よりよく生きるための体力・精神力の育成強化
- 2 生涯体育への基盤整備の年でありたい
 - (1) 体育の生活化への強化策の策定。
 - (2) 生甲斐につながる生活技術としての体育のあり方の研究。
 - (3) 見るスポーツからやるスポーツへ。

自己研修に努めよ

福井県学校体育研究会会長 斎 藤 輝 夫



- 体育教師は、もっと真剣に自己研修に励む努力をしなければならない。
- 1 「体育する」意義を自分が生きている社会から学び、指導者としての豊かな発想を培うこと。
 - 2 指導方法を己の実践の積み重ねにプラスして

- 先輩・同僚の実践から学び、その理論と実践を勉強して、ともに高め合う仲間をつくること。
- 3 子どもを大切にす姿勢のなかで、その反応や変化を適確にとらえて、己の実践の在り方を学ぶこと。

昭和58年度に向けて提言する

和歌山市立宮小学校教頭 加 藤 晃



- 運動の楽しさを学びとらせる授業研究を進める。
- 1 子どもが自発的な学習をとおして、運動を味わった後の満足感と充実感が得られる授業の工夫
 - 2 子ども自らが、自分の能力にあった課題を持って学習に取り組む運動の内容と場を工夫す

- る。(児童の側に立った内容の研究)
- 3 仲間と共に高まろうとする学習集団の育成 個人個人の能力を生かし高まる為に、お互いに励まし合い、協力し合い、助言しあう学級の仲間意識を育てる学級経営の創意工夫と学習を結ぶ。

昭和58年度に向けて提言する

島根県学校体育研究会会長 渡 辺 晴 夫



覚悟した教育を
行財政改革の論議の最中である厳しい昭和58年度を迎えようとしている。行政サイドに居て予算要求、説明を行い査定を受ける側から教育現場を見ていても、又目標のつかみにくい、そして誘惑や悩み

多い児童、生徒からみても、1人の先生は貴重な存在である。覚悟して生きていく生の間人像を通しての影きょうが一番根本であることを今一度思い返したい。生き生きとした活力のある一日のコンディショニングは、見られている先生の大切な条件である。

逞しさと優しさを持つ児童・生徒の育成を

長崎県学校体育研究会会長 荒 木 乙 二



青少年の体力不足が指摘され、また、高校進学率の向上による生徒の多様化で、校内の秩序と道徳が失われつつある昨今、逞しい体力づくりと、優しい心づくりが、何よりも急務であると思う。これには、心身の著しい発達段階にある児童・生徒に、厳

しい肉体の鍛錬を課しながら、一方では、彼等と互いに「心の触れ合い」を計り易い立場にある体育教師こそ、最も相応しいと言えよう。現場の体育指導者の一人ひとりが、このことを自覚し、強い使命感に燃えて、職務に精励されんことを期待する。

昭和58年度に向けて提言する

沖縄県学校体育研究連合会会長 中 村 正 徳



学校体育の指導は学習指導要領の総則に示されている内容をよく理解して、体力の向上及び健康の保持増進を図り、知・徳・体の調和的発達を目指し、次代を担う青少年の育成を期することにある。

- 1 児童生徒一人一人を鍛え励ます授業の研究実践
- 2 日常生活の中に溶け込んだ体力づくりを楽しむ心がけを育成し、生涯体育の習慣化を目指す。
- 3 特別活動等を通して自己の記録に挑む体力や気力を養成する。

『筑波研究学園都市完全ガイドブック』のご紹介

昭和60年開催予定の、日本で3度目の国際博覧会「科学万博——つくば'85」を2年後に控えた茨城県筑波研究学園都市は、筑波大学をはじめ45の国立教育研究機関が移転を終了して、世界の頭脳都市として機能しはじめている。

昨年は、ロボットなどの先端技術視察のために、ミッテラン仏大統領、サッチャー英首相なども、訪問している。

また、最近では、教育関係者の間でも、筑波研究学園都市に対する関心が非常に高まっており、教員の視察・研修のみならず、修学旅行の見学コースとしても取りあげられはじめている。

こうした状況の中で、今回、わが学体連の大石三四郎会長（筑波大学名誉教授、国立特殊教育総合研究所長）の責任編集による「筑波研究学園都市完全ガイドブック」が発刊されることになった。

著者の大石先生は、筑波大学副学長時代は、研究・医療の2部門を担当され、当初から、学園都市の中核を担う形で、筑波大学の創設にあたってきた方であり、その後も各省庁直轄研究所長連絡協議会の文部省代表幹事として、学園都市の各研究機関と深く関わってきており、いわば筑波研究学園都市の生みの親的存在である。

発行元は、地元、筑波研究学園都市で、筑波大学OBが創設した出版社チームである。この会社は、1978年より、「学園都市情報誌OPEN」を編集発行してきており過去6年間に、のべ170人のスタッフが収集、蓄積した学園都市関係のあらゆる情報を今回、大石先生が、教育関係者向きに編集したのが、ここに紹介する「筑波研究学園都市完全ガイドブック」である。

内容は、昭和60年3月17日から6ヶ月間「人間・居住・環境」をテーマとして開催される「科学万博——つくば'85」の開催経緯・基本構想・政府出展内容・民間パビリオンの紹介。

そして、筑波研究学園都市の概要と、一般公開さ

れている筑波大学および国立研究所の展示内容紹介、見学の申し込み方法、見どころの紹介、さらに、研究所も含めた、学園都市見学のモデルコースもいくつか設定されている。

先生の筑波紹介の基本的な考え方は、「過去をふり返るなら、京都・奈良、明日をみつめるなら筑波学園都市」ということで、筑波見学によって現代社会を支える科学技術の基本的な理解を青少年にしてもらおうというものである。

また、過去6年間に「学園都市情報誌OPEN」に掲載された、小松左京・松本零士・牛尾二郎各氏の科学博インタビュー、また、「学園都市文化」について語った、川喜田二郎・村松剛・青木彰3氏による談話などが盛り込まれている。さらに、学園都市在住の著名人による、筑波の歴史・文化・風土などに関するコラムも織り込まれており、イデオポリス筑波の雰囲気うまかつたわってくる。

また、付録の学園都市マップは東京・成田からの位置関係や、周辺の観光コース・諸施設などを網らして、視覚的に表現されており、非常に便利である。

このように、このガイド誌が一冊あれば、学園都市の利用・見学に実用的に便利であるとともに、当代一流の文化人のインタビュー、てい談、コラムなどによって、この未来都市の文化論が深く探求されているために、読み物としても充分納得のいく内容となっている。

発売は、5月下旬で、予価1,200円
申し込みは、

〒305 茨城県新治郡桜村天久保3の9の6
大木ビル3F

株式会社チーム
「学園都市ガイド」係

TEL 0298-52-4521

(学体連事務局長 重田 一)

学体連編集の図書について

事務局長 重 田 一

1 スポーツ断想

新しい学習指導要領が学年進行で、小学校から始められた昭和55年度、初めて学体連編集の図書が世に出た。スポーツ断想①である。

これは学体連会長大石三四郎先生の筑波大学副学長退官を記念して、1980年代のスポーツ・体育について座談会などの形式で発表されたものを、筑波大学体育センター長だった浅田隆夫教授がまとめたものである。

(1) スポーツ断想①——政策・文化・研究・医科学——大石三四郎編著 55.12.15発行 258頁 1,300円 ぎょうせい刊

I スポーツ科学の成果と課題

II 新しいスポーツ医科学への期待

III 国民のスポーツニーズとスポーツ行政

IV スポーツ鼎談

V スポーツベターライフ

の5つの章に分かれ、Iでは岸野雄三(筑波大学教授 スポーツ史)、松田岩男(同 スポーツ心理学)、松浦義行(同 発育発達・スポーツ統計解析学)、菅原 禮(同 スポーツ社会学)、小川新吉(同 スポーツ生理学)が登場、司会は浅田隆夫(同 スポーツ教育学・哲学)。IIでは、

池上晴夫(体育科学系)、寄金義紀(体育科学系)、浅井克晏(臨床医学系)、田淵健一(臨床医学系)が発言、江口篤寿が司会をしている。IIIはがらりと変って、遠山耕平(前文部省体育局体育課課長補佐)、鈴木裕一(日本体育協会事務局長)、岡野俊一郎(JOC総務主事)、戸村敏雄(文部省体育局スポーツ課課長)の順で発言。浅田隆夫が司会。

IVは、佐橋 滋(余暇開発センター理事長)、林 宗義(東京大学教授)、大石三四郎(筑波大学名誉教授、国立特殊教育総合研究所所長、財団法人日本学校体育研究会会長)の鼎談。司会は松田義幸(筑波大学助教授、体育科学系)。

Vは、ジョギング、バレーボール、合気道、スキー、体操、テニス、オリエンテーリング、クロケター、水泳、ヨット、スキングダイビング、アーチェリー、ゴルフ、バドミントン、アイススケート、剣道、スカッシュ、弓道、フリスビー、太極拳、デーパッキング、サーフィン、ソフトボール、女子サッカー、卓球、なぎなた、ローンボウル、ヨガ、カヌー、相撲、フォークダンスについて、それぞれ2ページを使って紹介したり、解説したり、勧誘したりしている。

◇お詫びと訂正◇

学体連会報第12号、11頁の理事・監事・評議員一覧中、金田一芳美先生(盛岡大学教授)と尾崎弘明先生(大阪府立岸和田高等学校校長)は、副会長でありますので、副会長欄に記すべきでありました。

又、12頁、評議員、新潟県の貝谷東吾先生の学校の電話を02-52-73-5755に訂正し、お詫びいたします。(事務局長 重田) 宮城県の評議員(11頁空欄)を次のようにして下さい。

都道府県	氏 名	勤務先・職名	所 在 地	電 話
宮 城	高 木 力 雄	宮城教育大学 助教授	〒980 仙台市荒巻字青葉	0222-22-1021

高知県の評議員(12頁空欄)も次のようにして下さい。

都道府県	氏 名	勤務先・職名	所 在 地	電 話
高 知	文 野 栄 喜	県立須崎高等学校 校長	〒785 須崎市下分甲397-2	08894-2-1744

何となくやってみようかなというような気持ちに誘われる。

㊦ スポーツ鼎談 184頁

元筑波大学の宮島龍興学長に、「どうしても健康によいか教えてくれ。自分が激務に入っても疲れがらだ」と聞かれ、私は「とにかく毎朝起きたら脈を20秒にどれだけ打つか勘定してごらん下さい。そして記録をとり下さい。20秒測って10秒休み、20秒測って10秒休み、4回ずつ毎日規則正しくとり下さい。それと自分で毎日これだけ歩くと一定の距離を決め下さい」とアドバイスをした。そうアドバイスをすると学長は非常に喜んで、「こういうことをどうして皆に教えないのか」と言うんです。

(2) スポーツ断想⑩——歓喜に賭けた青春像——

大石三四郎監修 金 球熙著 金 貞淑訳 56.4.10発行 238頁 1,300円 ぎょうせい刊 東亜日報社編集局副局長の著者が、20年間見て来た世界チャンピオンに輝いた若者、夢ならずしてスポーツ界を去った無数の若者。一方は欣喜雀躍し、他方は失意の淵に沈む。相反する結果でありながら、燃えつきた末に、スポーツがもたらす人生の美と真実即ち、率直さ、いさぎよさ、雄々しさ、さわやかさ、きびしさ、正直さ、つつましさなどを体得するに至った青年、そして青年が参加した韓国スポーツの主なイベントを綴った随想集である。

㊦ 214頁 ミュンヘンオリンピックで7個の金メダルを勝ち取り、世界のスーパースターとなった米国の水泳選手マーク・スピッツは「世の中の人々は金メダルを勝ち取ることをちょうどりんごの木からりんごをもぎ取るように考えるかも知れないが、結果よりも、それに至るまでの努力こそが重要なのである。」と話したのである。スピッツを誕生させるためにはその陰で数多い人人の血と汗の犠牲があったことを見逃してはならない。オリンピックで金メダルを勝ちとることがどんなに難しいかということはいま言うまでもない。梁正模選手(モントリオールオリンピック……1976年……レ

スリング金メダリスト)や、彼を抱きしめて涙を流した体育界指導者たちは、何の報酬もなく、自発的にこの難事業を担ってきた人達である。

(3) スポーツ断想⑪—小学生のスポーツ作文集— 56.9.30発行 246頁 1,300円 ぎょうせい刊

(4) スポーツ断想⑫ 中・高校生のスポーツ作文集 56.10.30発行302頁 1,500円 ぎょうせい刊 全国の小・中・高校生からスポーツに関する作文を募集し、入選した作品、⑫は81編、⑬は70編、(中学生53、高校生17編)を収める。真摯な児童・生徒の眼にどのようにスポーツが映っているのか。子ども達にも、その先生にも、そして親にも読んでいただきたい。心が洗われるような本である。

㊦ ⑬ 130頁(中学2年生)

スポーツをする事、それは、何よりも尊くすばらしい。本当にスポーツを愛するならば、運動神経がいいとか悪いとか、そんなことは関係ないのである。私は身をもってそれを知った。スポーツは体力や技術をつけるだけでなく、人間にとって一番大切な心をみがいてくれるのだ。

2 親と子のライフ&スポーツ

「親と子が一緒になって、スポーツに親しみ明るい健康的な生活を送ることは、だれもが望んでいる。しかし、その方法となるとなかなか難しい。

そこで、いろいろな角度から親と子の参考になる生活でのスポーツ・健康増進の方法をまとめてみたのがこのシリーズである。……」と大石会長はまえがきで述べている。

子どもが親や先生と一緒に、絵を見たり文を読んだりして、お菓子とつきあい、自転車やボウリング等と仲よくなるなら、このシリーズの目的は満足されるであろう。従って、親や先生が、子どもたちの指導のために、幅広い知識を蓄積するために読んで下さるなら、正に望外の喜びである。

(1) 子どもとお菓子 56.3.31発行 78頁 950円 ぎょうせい刊

おやつ(お菓子)の歴史と現状、お菓子の栄養的得失と役割り、子どもの生活とおやつ(お菓子)の関係、子ども

の健康とおやつ及びその与え方が、図入りで示されている。執筆者は、武藤静子（日本総合愛育研究所第4研究部長）、浅田隆夫（筑波大学教授、体育センター長）、荒井 基（日本女子大学教授）、宇留野勝正（東京家政大学教授）、高橋道子（神奈川県立栄養短期大学助教授）、山内 愛（日本総合愛育研究所研究員）。

- (2) **子どもとボウリング** 56. 7. 10発行 96頁
950円 ぎょうせい刊
子どもとボール遊び、ボウリングのすばらしさ、レッツゴー・ファミリーボウリングに分かれ、ボウリングの正しい理解と遊び方を説いている。

執筆者は、大石三四郎、小西 薫（子どものためのトレーニングプラザスコール顧問）、伊藤忠一（日本学校体育研究連合会）、すみ光保（日本プロボウリング協会創設メンバー、日本ボウリング振興協議会専任講師）。

- (3) **子どもと水あそび** 56. 9. 10発行 80頁
950円 ぎょうせい刊
執筆者は、浅田隆夫、高橋伍郎（筑波大学助教授）、小西 薫、土方幹夫（新潟大学助教授）、坂田勇夫（筑波大学助教授）

子どもと水とのかわり、子どもと水あそび、水あそびいろいろ……家庭で、プールで、川で、海での水あそび、水あそびのあとの処理……。

- (4) **子どもと自転車** 56. 11. 20発行 104頁
950円 ぎょうせい刊
自転車遊びとその楽しさ、自転車 遊び の 効果、自転車のピクニック、自転車のしくみと正しい乗り方、自転車の安全指導が内容。

執筆者は、大石三四郎、詫間晋平（国立特殊教育総合研究所部長）、松岡 弘（大阪教育大学助教授）、星 忠通（安全教育研究所長）、鳥山新一（財団法人日本サイクリング協会常任委員）、斎藤敦能（横浜国立大学助教授）

- (5) **子どもと雪あそび** 57. 2. 25発行 96頁
1,100円 ぎょうせい刊
浅田隆夫、野沢 巖（埼玉大学助教授）、大石示朗（東京女子体育大学講師）が執筆。
子どもと雪とのかわり、子どもと雪あそび、雪あそびをするにあたって、雪あそびの楽しみ

方、万一の場合に備えて、楽しそうな雪の遊びが、絵入りで沢山入っている。

- (6) **子どもとキャンプ** 57. 7. 15発行 112頁
1,100円 ぎょうせい刊

浅田隆夫、宮下桂治（順天堂大学助教授）、松浦三代子（東京女子体育大学助教授）、井上忠夫（順天堂大学講師）、師岡文男（上智大学講師）。
子どもを健やかに育てる法、キャンプに向けての準備、野山での楽しい生活のしかた、楽しいあそびのプログラム、いざという時に役立つ救急処置。

- (7) **子どもとあそびの歳時記** 58. 1. 10発行
102頁 1,100円 ぎょうせい刊

子どもにとってあそびの歳時記とは、子どものあそびの歳時記……正月から12月までのあそびを網羅している。懐しい本だ。

執筆者は、浅田隆夫、宇田川光雄（淑徳保育生活文化専門学校講師、財団法人日本レクリエーション協会）、角田亨子（淑徳保育生活文化専門学校講師）、古宇田亮順（淑徳保育生活文化専門学校講師）、木村國次（共立女子大学助教授）。

- (8) **子どもと運動ぐつ**（近刊）

3 現代小学校体育全集（全13巻）

昭和56年度中に全巻完成。小学校の体育指導に、力強い後ろ楯となる。

全13巻1セット 学体連あっせん特価 35,100円
（定価は 39,000円）

なお、申し込み等は、学体連事務局宛か下記の発行元へ直接お願いします。

学体連：〒151 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

国立オリンピック記念青少年総合センター内

（財）日本学校体育研究連合会 TEL 03(465)3954

発行元：〒162 東京都新宿区西五軒町52(株)ぎょうせい 営業課 TEL 03(268)2141 (代)

第4回障害者体育活動に関する国際シンポジウム出席とヨーロッパ障害者体育・福祉教育研究視察旅行のご案内（同国際シンポジウムはロンドンにて昭和58年8月29日(月)から5日間開催されます。）

団長 日本障害者体育研究会会長
日本学校体育研究連合会会長
全国大学体育連合理事
国立特殊教育総合研究所長

大石三四郎

旅行期間：昭和58年8月24日(水)～同年9月4日(日)12日間

訪問先都市：パリ・ジュネーブ・ロンドン（シンポジウム出席）

シンポジウム期間：昭和58年8月30日(火)～9月2日(金)4日間

旅行費用：¥ 477,000 —（全朝食付）（シンポジウム出席登録費含まず）

募集人数：30名

＜ 旅行日程 ＞

58年	
8月24日(水)	夜航空機にて東京発北廻りにてパリへ
8月25日(木)～27日(土)	パリにて市内視察及び福祉教育施設訪問
8月27日(土)～29日(月)	ジュネーブにて市内視察及び同上
8月30日(火)～9月2日(金)	ロンドンにて国際シンポジウム出席
9月3日(土)	午前航空機にてロンドン発北廻りにて帰国の途へ
9月4日(日)	午後東京着入国手続後解散 （全行程添乗員同行します）

お問合せ・連絡先は

国立特殊教育総合研究所

〒239 神奈川県横須賀市野比2360番地

電話(0468)48-4121番(代表)

所長室気付

日本障害者体育研究会

会長 大石三四郎

同国際シンポジウム及びヨーロッパ障害者体育・福祉教育研究に関心のある方は是非ご参加下さい。

中国体育研修の旅

主催：日本学校体育研究連合会
 日 通 航 空
 協力：北京市教育局
 上海市教育局

謹啓 時下益々御健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。
 この度、会員の皆様向けに、日本通運(株)の企画に基づき、中国に於ける「体育研修の旅」を準備しご案内いたします。
 この研修旅行は中国教育部・北京市教育局及び上海市教育局の協力のもと、体育施設、研究所などを見学し、関係指導員の先生方と日中両国の教育問題についての懇談会も交え有意義かつ内容の濃い充実した研修旅行です。また、中国教育制度上独特な少年宮を訪れ個性を伸ばす教育の現場を見学いたします。教育の本質が問われる今、青少年の教育に携わる先生方の真の意味での相互理解は将来の日本と中国の友好の上に多大な功績を残すものと確信いたします。

是非、この機会にご家族、ご知友お誘い合せの上、ご参加下さい。

記

旅行費用：¥348,000—
 旅行出発日：昭和58年7月29日(金)～8月6日(土) <9日間>
 訪問地：北京・西安・南京・上海

日数	都 市 名	現地時間	交通機関	備 考
1	東京発 (大阪経由) 北京着	午前 午後	航空機 航空機	午前：結団式後、大型航空機にて大阪経由で中国の表玄関、北京へ向います。 午後：ホテルへ向います。
2	北 京		専用/バス	午前：体育科学研究所を訪問し、意見交換。 午後：北京師範大学(体育学科)を訪問。 夕刻：北京の小、中学校体育教師と懇談会。
3	北 京		専用/バス	午前：北京市内見学(故宮、王府井など) 午後：万里の長城見学
4	北京発 西安着	午前	航空機	午前：航空機にて西安へ向います。 午後：西安市内見学(大雁塔、鐘樓など)
5	西 安		専用/バス	終日：西安近郊見学(秦始皇帝陵、華池など)
6	西安発 南京着	午前	航空機	午前：航空機にて南京へ向います。 午後：南京市内見学
7	南京発 上海着	夕刻 夜	一等列車 305km	午前：南京体育学院 午後：南京市内見学(中山陵など) 夕刻：一等列車にて上海へ向います。
8	上 海		専用/バス	午前：上海体育運動学校見学(少年宮の運動活動を見学、指導者の方々と懇談会) 午後：上海市内見学(玉仏寺など)
9	上海発 (大阪経由) 東京着	午前 午後	航空機 航空機	午前：航空機にて大阪経由で帰国の途へ 送迎手続終了後、解散

※最低実施人員：20名

本旅行の特徴

- ①本旅行は、北京市教育局、上海市教育局の全面的な協力を得ております。
- ②弊社は、北京に駐在員を有し、確実な手配、行き届いたサービスの提供が可能です。
- ③今回の旅行では、ホテルは各地とも一級(外人用)を使用し、また食事も3食付きの手配でございます。
- ④全行程ベテラン添乗員が同行し、懇切丁寧にご案内、お世話いたします。また現地では視察、市内観光に関し、ガイド・通訳が同行しご案内いたします。
- ⑤渡航手続に関しては、弊社の全国の支店網を駆使し、お手数をお掛けいたすことなくお世話いたします。

<お問い合わせ>

日本通運(株)新宿旅行支店 海外旅行第一課

「中国体育研修の旅」係

〒160 東京都新宿区西新宿7丁目10番地3号
 ☎ 03-363-5678・6700 担当：畑田・岩田

日本学校体育研究連合会が総力を結集して理論と実際を解説

現代小学校体育全集

[全13巻]

<新学習指導要領準拠>

日本学校体育研究連合会＝編集

全13巻セット定価39,000円(下実費)

13 体育指導の課題と解決 2,200円(千300)	12 教科外体育 2,900円(千300)	11 障害児の体育指導 3,200円(千300)	10 保健、スキー・スケート 2,900円(千300)	9 表現運動 2,900円(千300)	8 ボール運動 2,900円(千300)	7 水 泳 2,200円(千250)	6 陸上運動 2,900円(千300)	5 器械運動 2,900円(千300)	4 体 操 2,900円(千300)	3 ゲーム 2,900円(千300)	2 基本の運動 5,000円(千350)	1 学校体育 3,200円(千300)
-------------------------------	--------------------------	-----------------------------	--------------------------------	------------------------	-------------------------	-----------------------	------------------------	------------------------	-----------------------	-----------------------	-------------------------	------------------------

●造本・体裁：A5判・上製ケース入り・横組み
 各巻平均300頁・第7巻(水泳)192頁
 770頁・第7巻(水泳)192頁

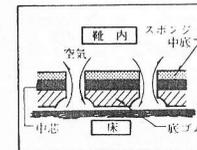


株式会社 日本郵船
 東京都新宿区西五軒町五丁目一三番一三(大代表) 振替東京九二五

～ 斯界の待望に応え、
 絶讃をあびて遂に登場した～

呼吸シューズ

- 実公報 昭53-40340号
- 商公告 昭54-14325号
- 意 願 3895号



(体育館用・
 上ばき用)
 (サイズ)
 14.0～27.0
 (カラー)
 青赤緑黄白

— 3つのドキュメント —

- 靴底に絶えず新鮮な空気の流れる……………呼吸シューズ
- 運動の度に吸気、排気を忠実に実行する……………呼吸シューズ
- 靴底に輝かしい光のさし込む……………呼吸シューズ

(株)日本学校体育研究連合会特別賛助会員

日本教育シューズ協議会

(財)日本学校体育研究会特別賛助会員

明石被服興業株式会社

本社 〒711 岡山県倉敷市児島田の口1-3-44 (0864) 77-7701
東京支店 〒103 東京都中央区東日本橋1-4-10 (03) 861-1917
福岡営業所 〒812 福岡市博多区豊2丁目 (092) 451-6920
宇部営業所 〒759-02 山口県宇部市厚南区際波 (0836) 41-7311

Yacht[®]

準教材としての体育衣料 (*Yacht*[®] スポーツウェア)



真面目な学生服 **富士ヨット学生服** 女性服

YACHT スクールカッターシャツ, 開衿シャツ, ブラウス, その他布帛

Columbine

コロンバイン

着る身になって良い品づくり

コロンバイン[®]

スポーツウェア

(財)日本学校体育研究会特別賛助会員

児島株式会社

倉敷市児島小川2丁目4番60号 TEL(0864) 72-2830 (代表)
営業所 (名古屋・東京・大宮・盛岡・札幌)